

---

**RL78ファミリ**

R01AN0839JJ0100

**ノイズに関する注意事項と対策例**

Rev.1.00

2011.10.04

---

**要旨**

本アプリケーションノートでは、RL78ファミリのノイズに関する注意事項およびその対策例について説明します。本対策例はノイズ対策として一般的に有効な手段ですが、実使用に際しては本対策を実施した後も十分なシステム評価を行ってください。

**対象デバイス**

RL78ファミリ

## 目次

|       |                                |    |
|-------|--------------------------------|----|
| 1.    | ノイズに関する注意事項 .....              | 3  |
| 1.1   | 配線長の短縮 .....                   | 3  |
| 1.1.1 | RESET端子の配線 .....               | 3  |
| 1.1.2 | クロック入出力端子の配線 .....             | 4  |
| 1.2   | VSS VDDライン間へのバイパスコンデンサ挿入 ..... | 5  |
| 1.3   | アナログ入力端子の配線処理 .....            | 6  |
| 1.4   | 発振子への配慮 .....                  | 7  |
| 1.4.1 | 大電流が流れる信号線からの回避 .....          | 7  |
| 1.4.2 | 高速にレベル変化する信号線からの回避 .....       | 8  |
| 1.5   | 入出力ポート処理 .....                 | 9  |
| 2.    | 参考ドキュメント .....                 | 10 |

## 1. ノイズに関する注意事項

### 1.1 配線長の短縮

基板上の配線は、ノイズをMCU内部に引き込むアンテナとなる可能性があります。総配線長が短い（mm単位）ほどノイズをMCU内部に引き込む可能性は低くなります。

#### 1.1.1 $\overline{\text{RESET}}$ 端子の配線

$\overline{\text{RESET}}$  端子に接続する配線は短くしてください。特に  $\overline{\text{RESET}}$  端子と  $V_{SS}$  端子間に接続するコンデンサや、リセットICとそれぞれの端子とはできるだけ短い（20mm以内）配線で接続してください。

- 理由

$\overline{\text{RESET}}$  端子に入力されるパルス幅はタイミング必要条件で規定されます。規定幅より短いパルス幅のノイズが  $\overline{\text{RESET}}$  端子に入力されると、MCU内部が完全な初期状態になる前にリセットが解除され、プログラム暴走の原因となります。

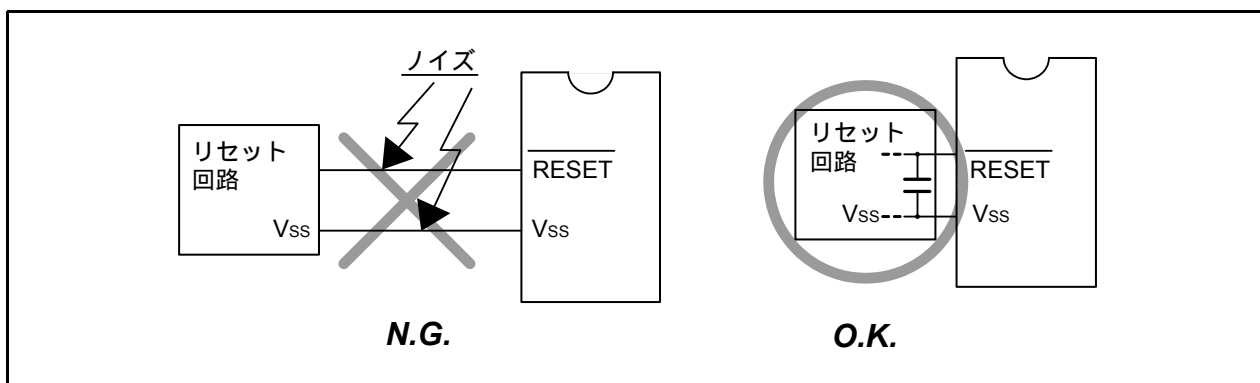


図 1.1  $\overline{\text{RESET}}$  端子の配線

### 1.1.2 クロック入出力端子の配線

- クロック入出力端子に接続する配線は短くしてください。
- 発振子に接続するコンデンサの接地側リード線とMCUのV<sub>SS</sub>端子とは最短（20mm以内）の配線で接続してください。

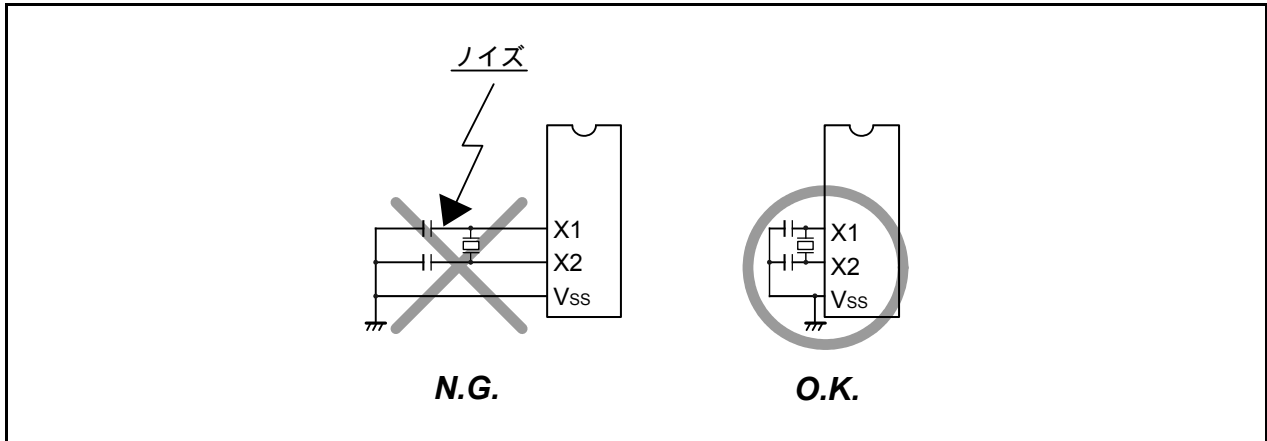


図 1.2 クロック入出力端子の配線

#### 理由

クロック入出力端子にノイズが侵入すると、クロックの波形が乱れ、誤動作や暴走の原因となります。また、MCUのV<sub>SS</sub>レベルと発振子のV<sub>SS</sub>レベルとの間にノイズによる電位差が生じると正確なクロックがMCUに入力されません。

## 1.2 VSS - VDDライン間へのバイパスコンデンサ挿入

VSS - VDDライン間に0.1  $\mu$ F程度のバイパスコンデンサを、以下の条件で挿入してください。

- VSS端子 - バイパスコンデンサ間の配線長とVDD端子 - バイパスコンデンサ間の配線長を等しくする
- VSS端子 - バイパスコンデンサ間の配線長とVDD端子 - バイパスコンデンサ間の配線長を最短とする
- VSSラインおよびVDDラインは他の信号線よりも幅の広い配線を使用する
- 電源配線は、バイパスコンデンサを経由してVSS端子およびVDD端子へ接続する

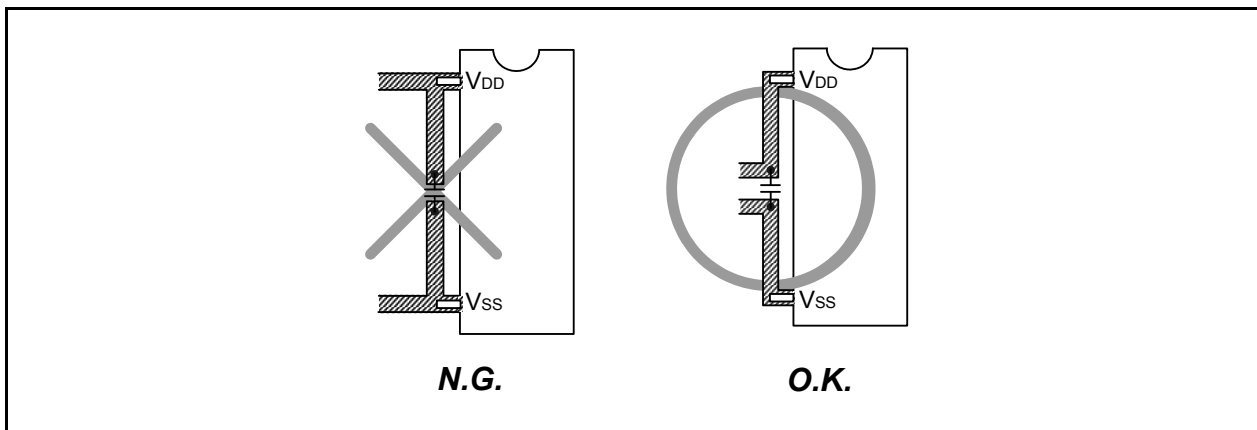


図 1.3 VSS - VDDライン間のバイパスコンデンサ

### 1.3 アナログ入力端子の配線処理

- アナログ入力端子に接続されるアナログ信号線の、MCUのできるだけ近い位置に、100 ~ 1k $\Omega$ 程度の抵抗を直列に接続してください。
- アナログ入力端子とVss端子間の、Vss端子にできるだけ近い位置に容量1000pF程度のコンデンサを挿入し、かつ、アナログ入力端子 - コンデンサ間の配線およびVss端子 - コンデンサ間の配線長を等しくしてください。

#### 理由

通常、アナログ入力端子に入力される信号はセンサからの出力信号です。事象の変化を検知するセンサは、MCUを実装している基板から離れた位置に配置されることが多く、アナログ入力端子への配線は必然的に長くなります。この長い配線はノイズをMCU内部に引き込むアンテナとなるため、アナログ入力端子にノイズが引き込まれ易くなります。

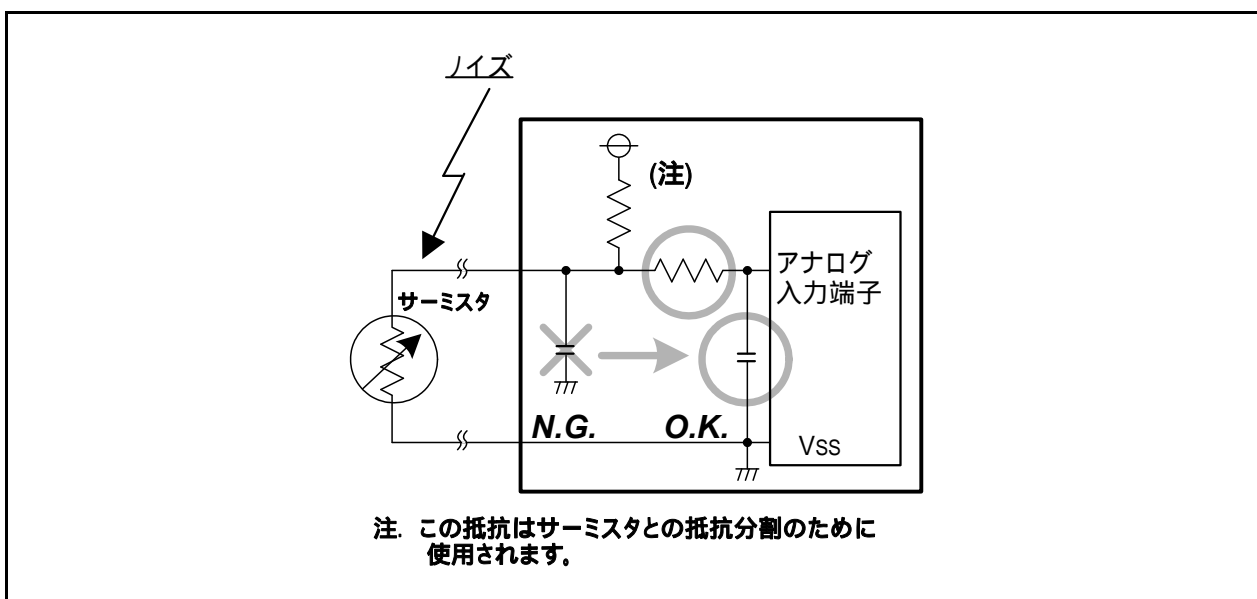


図 1.4 アナログ信号線と抵抗およびコンデンサ

## 1.4 発振子への配慮

MCUの動作の基本となるクロックを生成する発振子には、他の信号から影響を受けにくくする配慮が必要です。

### 1.4.1 大電流が流れる信号線からの回避

MCUが扱う電流値の範囲を越えた大きな電流が流れる信号線は、MCU（特に発振子）からできるだけ遠い位置に配置してください。

#### 理由

MCUを使用するシステムでは、モータ、LED、サーマルヘッドなどを制御する信号線が存在します。これらの信号線に大電流が流れる場合、相互インダクタンスによるノイズが発生します。

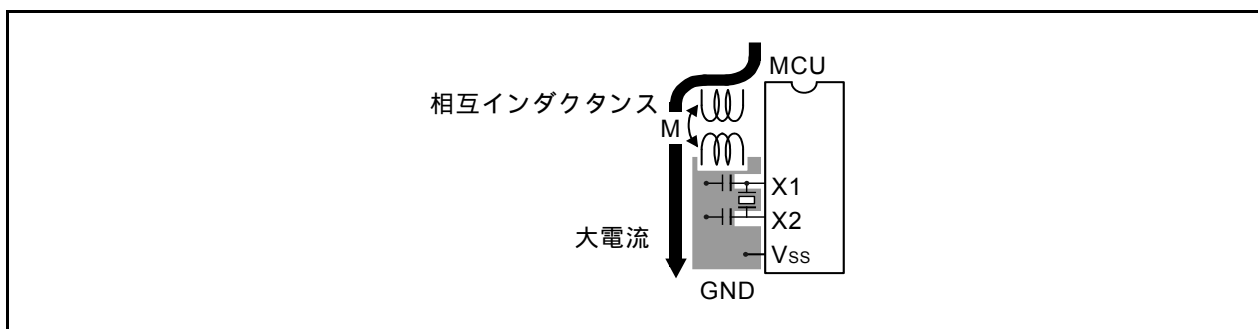


図 1.5 大電流が流れる信号線の配線

### 1.4.2 高速にレベル変化する信号線からの回避

高速にレベル変化する信号線は、発振子および発振子の配線パターンからできるだけ遠い位置に配置してください。また、高速にレベル変化する信号線は、クロック関連の信号線、その他ノイズの影響を受け易い信号線と交差および平行に長く引き回さないでください。

**理由**

高速にレベル変化するT001端子などの信号は、立ち上がりまたは立ち下がり時のレベル変化によって他の信号線に影響を与え易くなります。特にクロック関連の信号線と交差するとクロックの波形が乱れ、誤動作や暴走の原因となります。

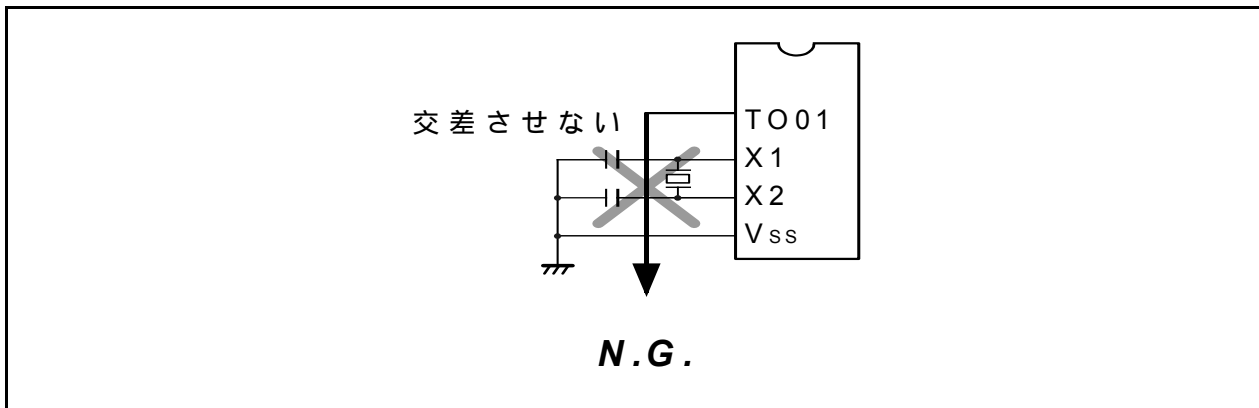


図 1.6 高速にレベル変化する信号線の配線



## 1.5 入出力ポート処理

入出力ポートは以下の要領で、ハードウェア、ソフトウェアの両面で対策を行ってください。

### ハードウェア面

- 入出力ポートに接続される信号線の、MCUのできるだけ近い位置に、100 Ω以上の抵抗を直列に挿入してください。

### ソフトウェア面

- 入力ポートではプログラムで複数回読み込みを行い、レベルの一致を確認してください。
- 出力ポートではノイズによって出力データが反転する可能性があるため、一定周期でポートレジスタの再書き込みを行ってください。
- 一定周期でポート機能を制御するレジスタの再書き込みを行ってください。

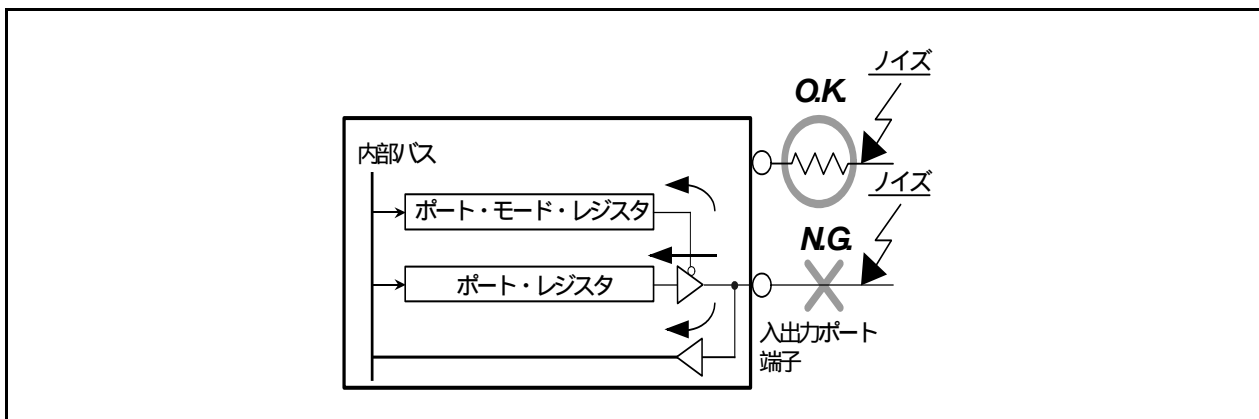


図 1.7 入出力ポート処理

## 2. 参考ドキュメント

各製品のユーザズマニュアルハードウェア編

(最新版をルネサス エレクトロニクスホームページから入手してください。)

テクニカルアップデート/テクニカルニュース

(最新の情報をルネサス エレクトロニクスホームページから入手してください。)

## ホームページとサポート窓口

ルネサス エレクトロニクスホームページ

<http://japan.renesas.com/>

お問合せ先

<http://japan.renesas.com/inquiry>

|      |                             |
|------|-----------------------------|
| 改訂記録 | RL78ファミリ<br>ノイズに関する注意事項と対策例 |
|------|-----------------------------|

| Rev. | 発行日        | 改訂内容 |      |
|------|------------|------|------|
|      |            | ページ  | ポイント |
| 1.00 | 2011.10.04 | -    | 初版発行 |

すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。

## 製品ご使用上の注意事項

ここでは、マイコン製品全体に適用する「使用上の注意事項」について説明します。個別の使用上の注意事項については、本文を参照してください。なお、本マニュアルの本文と異なる記載がある場合は、本文の記載が優先するものとします。

### 1. 未使用端子の処理

【注意】未使用端子は、本文の「未使用端子の処理」に従って処理してください。

CMOS 製品の入力端子のインピーダンスは、一般に、ハイインピーダンスとなっています。未使用端子を開放状態で動作させると、誘導現象により、LSI 周辺のノイズが印加され、LSI 内部で貫通電流が流れたり、入力信号と認識されて誤動作を起こす恐れがあります。未使用端子は、本文「未使用端子の処理」で説明する指示に従い処理してください。

### 2. 電源投入時の処置

【注意】電源投入時は、製品の状態は不定です。

電源投入時には、LSI の内部回路の状態は不確定であり、レジスタの設定や各端子の状態は不定です。

外部リセット端子でリセットする製品の場合、電源投入からリセットが有効になるまでの期間、端子の状態は保証できません。

同様に、内蔵パワーオンリセット機能を使用してリセットする製品の場合、電源投入からリセットのかかる一定電圧に達するまでの期間、端子の状態は保証できません。

### 3. リザーブアドレス（予約領域）のアクセス禁止

【注意】リザーブアドレス（予約領域）のアクセスを禁止します。

アドレス領域には、将来の機能拡張用に割り付けられているリザーブアドレス（予約領域）があります。これらのアドレスをアクセスしたときの動作については、保証できませんので、アクセスしないようにしてください。

### 4. クロックについて

【注意】リセット時は、クロックが安定した後、リセットを解除してください。

プログラム実行中のクロック切り替え時は、切り替え先クロックが安定した後に切り替えてください。

リセット時、外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックで動作を開始するシステムでは、クロックが十分安定した後、リセットを解除してください。また、プログラムの途中で外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックに切り替える場合は、切り替え先のクロックが十分安定してから切り替えてください。

### 5. 製品間の相違について

【注意】型名の異なる製品に変更する場合は、製品型名ごとにシステム評価試験を実施してください。

同じグループのマイコンでも型名が違っていると、内部 ROM、レイアウトパターンの相違などにより、電気的特性の範囲で、特性値、動作マージン、ノイズ耐量、ノイズ輻射量などが異なる場合があります。型名が異なる製品に変更する場合は、個々の製品ごとにシステム評価試験を実施してください。

## ご注意書き

1. 本資料に記載されている内容は本資料発行時点のものであり、予告なく変更することがあります。当社製品のご購入およびご使用にあたりましては、事前に当社営業窓口で最新の情報をご確認いただきますとともに、当社ホームページなどを通じて公開される情報に常にご注意ください。
2. 本資料に記載された当社製品および技術情報の使用に関連し発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権の侵害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
3. 当社製品を改造、改変、複製等しないでください。
4. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。お客様の機器の設計において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因しお客様または第三者に生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
5. 輸出に際しては、「外国為替及び外国貿易法」その他輸出関連法令を遵守し、かかる法令の定めるところにより必要な手続を行ってください。本資料に記載されている当社製品および技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的その他軍事事務の目的で使用しないでください。また、当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器に使用することができません。
6. 本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したのですが、誤りがないことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。
7. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」、「高品質水準」および「特定水準」に分類しております。また、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使われることを意図しておりますので、当社製品の品質水準をご確認ください。お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途に当社製品を使用することができません。また、お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、意図されていない用途に当社製品を使用することができません。当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途または意図されていない用途に当社製品を使用したことによりお客様または第三者に生じた損害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。なお、当社製品のデータ・シート、データ・ブック等の資料で特に品質水準の表示がない場合は、標準水準製品であることを表します。  
標準水準： コンピュータ、OA機器、通信機器、計測機器、AV機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット  
高品質水準： 輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通用信号機器、防災・防犯装置、各種安全装置、生命維持を目的として設計されていない医療機器（厚生労働省定義の管理医療機器に相当）  
特定水準： 航空機器、航空宇宙機器、海底中継機器、原子力制御システム、生命維持のための医療機器（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの、治療行為（患部切り出し等）を行うもの、その他直接人命に影響を与えるもの）（厚生労働省定義の高度管理医療機器に相当）またはシステム等
8. 本資料に記載された当社製品のご使用につき、特に、最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他諸条件につきましては、当社保証範囲内でご使用ください。当社保証範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めておりますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は耐放射線設計については行っておりません。当社製品の故障または誤動作が生じた場合も、人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせないようお客様の責任において冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、機器またはシステムとしての出荷保証をお願いいたします。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様が製造された最終の機器・システムとしての安全検証をお願いいたします。
10. 当社製品の環境適合性等、詳細につきましては製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制するRoHS指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
11. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを固くお断りいたします。
12. 本資料に関する詳細についてのお問い合わせその他お気付きの点等がございましたら当社営業窓口までご照会ください。

注1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサス エレクトロニクス株式会社およびルネサス エレクトロニクス株式会社とその総株主の議決権の過半数を直接または間接に保有する会社をいいます。

注2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注1において定義された当社の開発、製造製品をいいます。



ルネサス エレクトロニクス株式会社

■営業お問合せ窓口

<http://www.renesas.com>

※営業お問合せ窓口の住所・電話番号は変更になることがあります。最新情報につきましては、弊社ホームページをご覧ください。

ルネサス エレクトロニクス販売株式会社 〒100-0004 千代田区大手町2-6-2（日本ビル）

(03)5201-5307

■技術的なお問合せおよび資料のご請求は下記へどうぞ。

総合お問合せ窓口：<http://japan.renesas.com/inquiry>